



東北大学病院精神科「SAFEクリニック」<http://safe-youthcentre.jp>では、若者の精神障害の予防に向けた活動を行っています。今回は、高校の養護教諭へのアンケート調査の一部と、SAFEクリニックで治療したBさんについてご紹介します。

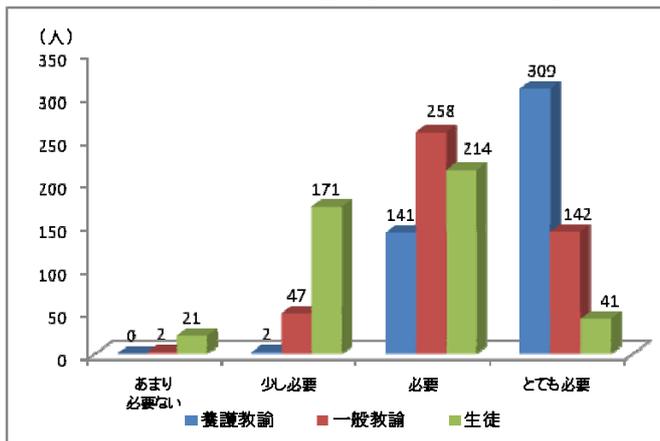
紙面についてのご感想やご質問などは、info@safe-youthcentre.jpまでお寄せください。

精神疾患の知識は誰にどのくらい必要？ ～養護教諭へのアンケート調査～



メンタルヘルスについての知識向上が社会全体にとって重要だと考えられてきています。高校養護教諭を対象に、養護教諭、一般教諭、生徒にとって、「精神疾患に関する知識」がどの程度必要か尋ねてみました。

(東北大学教育学部「全国の高校養護教諭へのアンケート調査」, 2008より)



グラフからは、生徒には「少し必要」あるいは「必要」、一般教諭には「必要」、養護教諭には「とても必要」と考える養護教諭が多いことがわかります。学校の現場でも精神疾患の知識はある程度は必要と考えられているようですね。

英国や豪州では、ストレス対処や精神疾患に対する知識を授業のなかに組み入れる取り組みが始まっています。精神疾患の予防のためにも、こうした取り組みがわが国でも行われることが期待されます。

『正体不明の声を 経験したBさん』



Bさんは、春頃から職場の人間関係に悩むようになりました。やがて、まわりに誰もいないのに自分を責める「正体不明の声」が聞こえてきました。考えをまとめるのも大変になり、仕事に行けなくなってしまったのです。

HPをみたところ、自分は精神症かもしれないと心配になり、連絡をとって「SAFEクリニックの早期支援外来」を受診しました。「初回エピソード精神症」で治療が必要と言われました。外来では、時間をとお話しを聞いてもらったり、必要な検査やお薬による治療が開始されました。少しして心理士さんとの「心理プログラム」も開始されました。

治療開始後1ヶ月ほどで、正体不明の声は聞こえなくなり、考えもしっかりまとまるようになってきました。心理プログラムでは、ストレスへの対処法や、再発を防ぐ取り組みを行っています。現在も定期的に通院治療を続けており、復職を検討するなど、徐々に自分らしい生活を取り戻してきています。



SAFEクリニックのご案内



SAFEクリニック(こころのリスク外来&早期支援外来)では、まとまらない言動や行動、軽い妄想、軽い幻覚など、精神症(精神病)の徴候がある14歳から35歳までの若者の専門治療を行っています。不登校、抑うつ、対人過敏、落ち着きなさなどの形で症状が出てくることもあります。

診療の予約やご相談については022-717-7737あるいはinfo@safe-youthcentre.jpまでご連絡ください。簡単にお話をお聞かせいただき、必要な予約をとらせていただきます(同封のパンフレットをご活用ください)。

また、若者のこころの病気についての啓発活動、専門研修などのご相談もお引き受けしています。